

施 工 状 況 等 報 告 書

2019年 10月 28日

長野県知事 阿部 守一 殿

住 所 東京都千代田区霞が関三丁目2番1号
氏 名 黒部川電力株式会社
代表取締役社長 小泉 健

〔 法人にあつては、主たる事務所の
所在地、名称及び代表者の氏名 〕

長野県環境影響評価条例第32条第1項（長野県環境影響評価条例第40条第1項において準用する同条例第32条第1項）の規定により、下記のとおり送付します。

記

| | |
|--------------------|---|
| 対 象 事 業 の 名 称 | 新姫川第六発電所建設工事 |
| 報 告 対 象 期 間 | 2019年 7月 1日から 2019年 9月 30日まで |
| 環境の保全のための措置の 状況 | 詳細は添付資料「環境保全措置実施状況一覧表 (第Ⅰ工区)」参照。 |
| 対 象 事 業 の 実 施 状 況 | 第二沈砂池工事（既設開渠部拡幅工事）、導水路坑口 上部法面掘削および補強工事を実施中。 詳細は添付資料「対象事業の実施状況一覧表（第Ⅰ工 区）」および「現況写真（第Ⅰ工区）」参照。 |

（備考）必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

施工状況等報告書添付資料「環境保全措置実施状況一覧表（第Ⅰ工区）」

期間：2019年7月1日～2019年9月30日

【水環境】

| 影響要因 | 影響要素 | 環境保全措置の内容 | 環境保全措置の実施状況 |
|-----------------|---------|-----------------------|--|
| 造成等の施工による一時的な影響 | 水の濁り | 濁水処理装置による水の濁りの適正処理 | 第二沈砂池構造物掘削作業に伴う濁水は発生しなかった。また、導水路坑口の上部法面補強工事においても、濁水は発生していない。雨水については沈砂池を経由し上水を排水している。導水路工事開始時には、濁水処理装置を設置する予定である。 |
| | | 排水水質の管理 | 連絡トンネル掘削工事が完工しており、湧水は発生していない。導水路工事では濁水処理装置出口における排水の浮遊物質量が25mg/L以下となるよう濁度計を用いて管理する。 |
| | 水素イオン濃度 | 濁水処理装置による水素イオン濃度の適正処理 | 第二沈砂池構造物掘削作業に伴う濁水は発生しなかった。また、導水路坑口の上部法面補強工事においても、濁水は発生していない。雨水については沈砂池を経由し上水を排水している。導水路工事開始時には、濁水処理装置を設置する予定である。 |
| | | 排水水質の管理 | 連絡トンネル掘削工事が完工しており、湧水は発生していない。導水路工事では濁水処理装置出口における排水の水素イオン濃度を6.5以上8.5以下となるよう管理する。 |
| | 地下水水質 | 濁水処理装置による処理 | 連絡トンネル掘削中は濁水処理装置を設置したが、工事が完工しており、湧水の発生はない。 |
| | | トンネル排水水質の監視 | 事前調査で地下水水質に異常が無いことを確認している。 |

【大気環境（建設機械の稼働に伴う騒音、振動）】

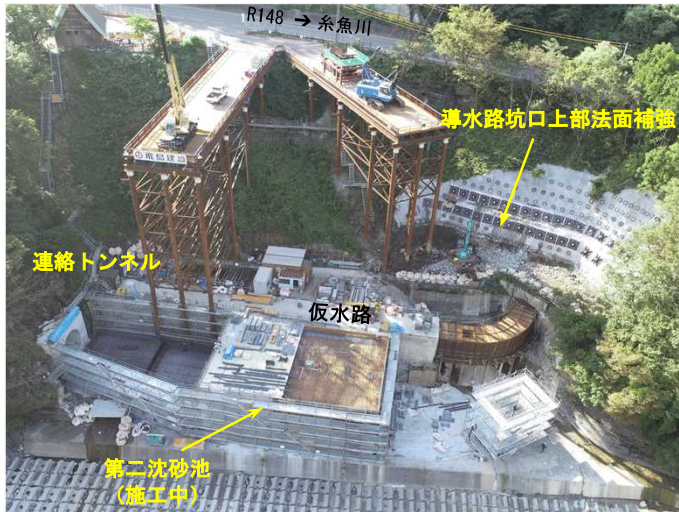
| 影響要因 | 影響要素 | 環境保全措置の内容 | 環境保全措置の実施状況 |
|---------|-------|-----------------|--|
| 建設機械の稼働 | 騒音・振動 | 工事量の平準化 | 工事計画策定段階において、工事量を平準化し、ピーク時の建設機械稼働台数の低減を図る工程とし、工事を実施中である。 |
| | | 建設機械の効率的な使用 | 工事規模に合わせ、建設機械等を適正に配置し、効率的な使用を行い、工事を実施中である。 |
| | | 資機材の工場組立 | 仮設鋼材等は可能な限り工場組立とし、現地での施工機械使用の低減に努め、工事を実施中である。 |
| | | 低騒音、低振動型建設機械の使用 | 現在使用しているバックホウ・発電機等は低騒音・低振動型を使用し、工事を実施中である。 |

| 影響要因 | 影響要素 | 環境保全措置の内容 | 環境保全措置の実施状況 |
|---------|-------|--------------------|---|
| 建設機械の稼働 | 騒音・振動 | 夜間工事の抑制 | 導水路工事や断水工事等を除き、原則として夜間工事を行わないことで、工事を実施中である。 |
| | | 建設機械の性能維持 | 建設機械は常に点検整備された状態を維持し、工事を実施中である。 |
| | | 環境保全措置の工事関係者への周知徹底 | 定例会議等にて環境保全措置を工事関係者へ周知徹底している。 |

【動物・生態系】

| 影響要因 | 影響要素 | 環境保全措置の内容 | 環境保全措置の実施状況 |
|--------------------|--------------|---|---|
| 建設機械の稼働、造成等の一時的な影響 | 生息環境・生育環境の保全 | 地形改変の最小化 伐採面積の最小化 | 既設設備を有効活用することにより、地形改変の最小化、伐採面積の最小化を図り工事を実施中である。 |
| | | 河川維持流量の放流 | 適正な河川維持流量（1.63m ³ /s）を放流している。 |
| | | 工事排水の適切な処理 | トンネル工事における坑内からの汚濁水は濁水処理装置に送水し適切に処理を行う計画である。雨水については沈砂池を経由し上水を排水している。 |
| | | 低騒音、低振動型建設機械の使用 | 現在使用しているバックホウ・発電機等は低騒音・低振動型を使用し、工事を実施中である。 |
| | | 夜間搬出入の制限 | 導水路工事や断水工事等を除き、原則として夜間工事を行わないことで、工事を実施中である。 |
| | | 工事着手前に猛禽類（サシバ）の繁殖行動の有無を調査し、営巣木が現況よりも工事区域に近づき、影響が予測される場合にはコンディショニングを実施する | 4月下旬、6月中旬に繁殖調査を実施し、昨年と同様の場所で営巣を確認し大きな影響はないと予測された為、コンディショニングは実施しなかった。繁殖を行っていることを確認したことから順調であれば、7月中旬～下旬ごろ巣立ちを行ったと考えられる。 |
| | | 資機材、仮設建物の早期撤去 | 工事に使用する資機材、仮設建物は、必要に応じ適時配置し、工事終了後は速やかに撤去する計画とし、工事を実施中である。 |
| | | 工事関係車両の走行速度の注意喚起 工事関係者の立ち入り制限・動物保護の指導徹底 環境保全措置の工事関係者への周知徹底 | 定例会議等にて環境保全措置を工事関係者へ周知徹底している。 |

施工状況等報告書添付資料「現況写真（第Ⅰ工区）」



全景（川側より）
（2019. 9. 27撮影）



第二沈砂池施工状況（上流より）
（2019. 9. 27撮影）



第二沈砂池施工状況（下流より）
（2019. 9. 27撮影）